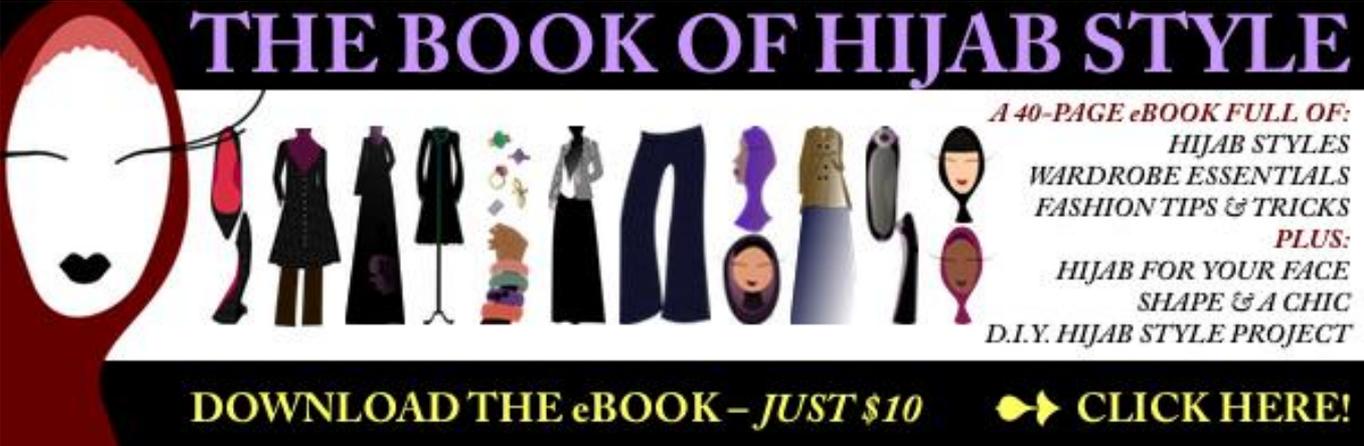


# 第7回 フェミニズムとヴェール



**THE BOOK OF HIJAB STYLE**

*A 40-PAGE eBOOK FULL OF:*  
HIJAB STYLES  
WARDROBE ESSENTIALS  
FASHION TIPS & TRICKS  
**PLUS:**  
HIJAB FOR YOUR FACE  
SHAPE & A CHIC  
D.I.Y. HIJAB STYLE PROJECT

**DOWNLOAD THE eBOOK – JUST \$10** ➡ **CLICK HERE!**

<http://welovehijab.com/>



# 第5回事後課題「視線と空間の分離」 (教室21 Plone59 計80名)

例：大奥、平安貴族、女子大学、女性専用車両、トイレ、浴場

## メリット

- ・保護されている→自由、気楽、親密、きめ細やか
  - ・イスラームの「隠す」文化は、男女ともに理性を保つのに効果があること(Kさん)
  - ・「見る男」「見られる女」の転換、見る主体(Kさん)
- ←自分の身は自分で守るべきではないか

## デメリット

- ・不自由、制限、排除、気遣い、(意見の)偏り
  - ・閉鎖的、後進的というイメージを与える
- ←ムスリム女性がどう思っているのか、本音がしりたい。

# 1. 中東の女子教育

## エジプト

- 1805年 ムハンマド・アリー朝  
富国強兵 殖産興業
- 1832年 女子医学校
- 1870年 官立女子学校創設の約束
- 1890年代 女子校、ミッション・スクール、ムスリム慈善協会  
女性誌の刊行 『アニス・アルジャリース』(1898-1908)、  
『アルジンスアルラティーフ』(1908-、『ファタート・アッシャルク』(1906-39)など
- 1900 女性の教員養成学校
- 1908 女性前進協会(保守的)
- 1910ころ ヴェールをつけない女性の増加
- 1914 女性知識人協会(ホダー・シャラーウィー1879-1947、マイ・ジャーダ1886—1941など)
- 1919年3月 ヴェールのデモ。ワフド党のザグルールの逮捕に抗議して。
- 1923年3月 エジプト・フェニミスト連盟(シャラーウィー)
  - 23年5月 ローマ国際女性同盟会議から帰国、カイロ駅でヴェールを脱ぎ捨てる
  - 女性の教育権、一夫多妻の禁止、最低婚姻年齢16歳
- 1925年 男女の義務教育化
- 1929年 エジプトでの女性の大学入学許可(1937までに女性学士1979名、47年学士4000名)
- 1930 女子就学率24%、218,165人(1937年女性の非識字者91%)

## オスマン帝国

- 1846年 ダールアルフヌーン(イスタンブル大学の前身)設置
- 1868年 初等教育義務化・無償化
- 1859年 女子高等小学校設置
- 1870年 女子師範学校設立

# 日本

1872年 学制発布(初等教育の義務化)

1875年 東京女子高等師範学校

1877年 東京帝国大学設置

1911年 平塚らいてう(1886-1971)  
お茶の水高等女学校、日本女子  
大学家政科。

青鞆社 『青鞆』創刊

「元始、女性は実に太陽であつた。  
真正の人であつた。今、女性は  
月である。他に依つて生き、他の  
光によつて輝く、病人のやうな蒼  
白い顔の月である。」  
長沼(高村)智恵子画



## 2. エジプトのフェミニズム運動

### フダー・シャーラーウィー(1879-1947)

女性知識人協会(1914設立)

1919年 ヴェールのデモ 350名 ザグルールの逮捕への抗議、ワフド党女性委員会の組織による

「エジプトの女性も、燃えさかる革命の炎を前に手をこまねていることを望まなかった。彼女たちはこの偉大な行動の名誉に与ることで、無法な占領者に対し、エジプト女性は力においても決意においても、彼女たちの西洋の姉妹に劣っているわけではないことを示そうと欲したのである。また、男たちの心に愛国的熱意の火を燃え上がらせたいと欲したのである。……3月16日、多くの上流家庭の妻たちがカイロの街頭に繰り出し、自由と独立万歳と叫び、保護国体制打倒を呼びかけた。彼女たちの行進は諸外国の領事館や公館の前を通り、周囲の人びとは拍手し、歓声をあげ、女たちも家々の窓からザガーリードや歓声をおくっていた。それは万人の心を捉える、美しく、荘厳な光景だった。しかし当局の側はこのようすばらしい行進の晴れがましさに、泥を塗らずにはおかなかった。イギリス兵たちは女性たちの行進を包囲し、彼女たちに対し、ライフルや銃剣をつきつけた。」

(アブド・アッラフマーン・ファフミーの回想、『世界史史料』第12巻、岩波書店より)

フダー・シャーラーウィー  
(1879～1947年)



エジプト女性のデモ行進  
(1919年)



# 脱ヴェール

「いくつもの大規模な集団となつて、通りに繰り出している。町の最下層の地域からきた売春婦たちが伝染性の流行病に感染し、ヴェールもつけず、多少慎みに欠ける衣装で着飾っている一方で、いまだにヴェールをつけ、黒のゆったりとしたおおいに身を隠した、この尊敬されるべき階層の女性たちがである」

1923年 エジプト・フェミニズム  
連盟設立

- 5月 国際女性会議からの帰国、カイロの駅頭でヴェールを脱ぎ捨てる。→



# マラク・ヒフニー・ナーシフ 1886-1918

- 教員、ウンマ党の機関誌にペン・ネームで執筆。
- 一夫多妻と一方的離婚に反対、女性のモスクへの参集、教育、就業の権利を主張
- ヴェール着用廃止に反対 イラン国王のヴェール禁止令からの防衛
- 慎み深さをヴェールから計ることに反論。「教養ある男性諸兄、あなたがたはどうして私たちにヴェールを着けるな、などとお命じになれるのですか。私たちの誰だろうと通りを歩けば、汚い言葉を投げかけられ、淫らな目つきで眺められたり、卑しむべき言葉を浴びせかけられて、私たちは恥ずかしさのあまりに額に汗を浮かべるというのに」→女性が教育を受け、自身で判断できるように。
- 「(男性が)私たちがを奴隷にしたとき専制的であったのと同じように、私たちが解放するときも専制的であることに」気づかねばならない (p.262)
- ヴェールの象徴的意味(貞淑さと解放)を否定し、女性自身の成熟を訴える。

# イラン国王レザー・シャーの「女性解放宣言」(1936年1月)

高等教育師範学校の祝賀式典、ヴェールなしの王妃と王女

「余は女性たちが教育と知識を通じて自らの地位を認め、また権利と優秀さを追求してきたことを喜ばしく思う。…貴方方、余の姉妹や娘たちは社会進出を果たし、祖国と自らの幸福のために歩み出している今、祖国のために働くことが貴方方の義務であることを知らねばならない。…貴方方が尊重すべき点は、自尊心を持ち、…自らが偉大な資質を有していると考えべきことである。…貴方方の名誉と誇りが国の自由と独立に連結していることを示さねばならない。」

翌月 ヘジャブ着用を伴った官吏・軍人の罷免、ヘジャブ着用女性の市内立ち入り禁止、ヘジャブ着用女性への公共サービス(バス、浴場、医院など)の提供禁止

参考: 1928年3月 アフガニスタン国王アマーヌッラーと王妃のイラン訪問、ヴェール不着用。ウラマーの反対声明→「イラン人女性たちは、明らかに自由に市内を男性たちと闊歩し、また映画館、劇場、カフェにも足を運び、…ヴェールを外してはいないが、顔を覗けるようにずらして被り」(英国公使館の報告)

# ホメイニー（イラン革命指導者）の回想 と反論

「ヴェール廃止による「女性解放」宣言は、イスラームに反対する政策の一環をなした。これを強行するレザー政権自体が独裁である以上、実際長年女性運動家の悲願であった男性と平等な政治社会的権利を決して配慮したものではなく、あくまでこれを政治目的に利用する性格が濃厚であった」（吉村慎太郎訳、『レザー・シャー独裁と国際関係』2007年、所収）

Malak Hifni Nasif



Zaynab al-Ghazali



# 1930年アラブ女性会議(ダマスカス)



# ザイナブ・アルガザーリー(1918ー)

- ムスリム同胞団、ムスリム姉妹団のフェミニズム
- 西洋女性への批判
- 「イスラームは、女性が公的生活に行動的に参加することを禁じてはいない。イスラームは女性が働いたり、政治の世界に入ったり、自分の意見を表明したり、あるいは何かになることを禁じてはいない。その何かが、彼女の第一の義務、すなわち母親、イスラームの義務において子供達をしつける者たることを邪魔しないならばの話だが」(p.287)

# ドウツリーヤ・シャフイーク(1908-75)

- ナイルの娘連盟設立(1948)、1951女性参政権を求める国会デモ、57年ナセル政権から軟禁、75年自殺。
- She later conducted a hunger strike in a final push for women's political rights and also engaged in debates with the Islamic establishment, objecting to fatwas saying that women should not vote.



# 女性の参政権獲得(1956年)

The state granted women the right to vote and run for parliament in 1956. Here, Rawya Attiya, in military garb, canvassing the support that would make her Egypt's first female parliamentarian (1957)

出典

[http://www.mediterraneas.org/article.php3?id\\_article=178](http://www.mediterraneas.org/article.php3?id_article=178)

“Egyptian Feminism in a nationalist century” By Margot Badran



# 3. ヴェールの廃止

カーシム・アミン『女性の解放』(1899年) エジプトの近代思想家、民族運動家

- 女性の初等教育、一夫多妻の禁止、離婚、ヴェール着用の廃止、を主張

「蒸気と電気の力を発見することができるような知性と感情の完璧さを獲得したヨーロッパの男性、…人生の快樂より知識と名譽を追求して日々、命を危険にさらすこれらの精神、…我々がかくも賞嘆してやまないこれらの知識人、これらの精神が女性を護り、女性の貞操を維持する手段を知らないとでも、エジプト人は想像するのだろうか？彼らもまた、かつてはヴェールの着用を習慣としていたのだ。もし、ヴェールというものに何らかの長所があったとしたら、彼らがこれを廃止してしまうなどと想像できようか」(p.230)

「エジプト女性の大半は、毎日、髪をとかす習慣がない。…入浴も週に一度がいいところだ。女たちは歯ブラシの使い方も知らなければ、どのような服装が魅力的に見えるかということにも頓着しない。彼女たちのこのような魅力ぶりや清潔ぶりは、男性の傾向に著しく影響を与えている。彼女たちは、夫の中に欲望をかきたてる術もしらなければ、その欲望を維持し、高める術も知らない。…無知な女性は、内面的な感情の機微や好悪を助長する術を理解しないからである。…彼女が男性の欲望をかきたてようとすれば、たいていその逆の効果を生むことになる。」(p.225)

クローマー(英国エジプト統監)

「東洋における女性の貶められた地位は害毒である。その破壊的作用は幼年時代というごく初期に始まり、イスラームという制度全体を蝕むのである」西洋人＝理性的、東洋人＝「その画趣に富んだ街路と同様、著しく対称性に欠けている。彼の理性はいい加減な描写をするのが関の山だ」(p.218)

# トルコ共和国の改革

トルコ革命 「共和主義、国  
民主義、人民主義、世俗  
主義、国家資本主義、革  
命主義」

学校教育の西洋化、スー  
フィー修道場の閉鎖、男  
性のトルコ帽と女性の  
ヴェールの着用禁止、ア  
ラビア文字にかわるロー  
マ字の採用→脱イスラ  
ム化



# 4. 現代のヴェール(再ヴェール化)

## 2. 1 1950-60年代 アラブ・ナショナリズム(エジプト革命、アルジェリア革命…)

- ヴェールの減少

## 2. 2 再ヴェール化 1970年代後半

- **イスラーム服** ヴェール(スカーフ、ヒジャーブ、ニカーブ)と長袖ブラウスプラスロングスカート、あるいは長衣。
- 大学生から、中流の職業人へ。

### 効用

- 経済的 ・外出しやすい ・男性と同席できる
- ヴェールの着用 イコール イスラーム主義者、保守的、を意味しない。
- ヴェールとファッション
- カフェの女性客

# 国家とヴェール

## ヴェール着用の義務づけ

- サウジアラビア、イラン、パキスタン、スーダンなど
  - 習慣化(バングラデシュ)
  - 個人の自由(インドネシア、エジプト、トルコ、チュニジアなど)
- イランの女性 白いヴェール、前髪、政治参加(ハータミー政権)
- トルコ →ヴェール禁止への反対デモ(女子学生) 1989年緩和措置

# カフェ(ダマスクス、2010) 男、おとこ……



# 第7回事後課題

## Islamic Fashion Clothing on websites

- ビデオTurkey: Unveiling Islamic fashion (PloneのMaterialにアップ24日教材)をみて、感想や意見を自由に述べてください。
- 提出期限 11月28日 24時 今回はPloneのみ。
- もとのビデオはyoutubeに掲載されています。

# 今後の授業予定

12/1 ビデオ Arab Women in North America talk  
about the Hijab をみて意見交換

12/8 ファトワー(法相談)とジェンダー規範

12/15 欧米のムスリム社会

12/22 学期末グループ・レポート準備(授業なし)

1/12 日本のムスリム

1/19 FGM または ベリーダンス

1/26 グループ発表とエジプト人留学生との意見交換